

3月 月例報告書

オーストラリア留学 Southern Cross University GOLD COAST

文化政策学部 国際文化学科 廣瀨 波貴

「怒涛」と「恐怖」の一ヶ月が過ぎた。この一ヶ月、命の危機や人生一辛い事を体験し、日本に帰りたい楽になりたいと何度思ったことか。それでも何とか生き抜いた訳だが、留学のリアルをお伝え出来たらと思う。

○ ホストファミリーは結局ビジネス？はずれのホストファミリー

私は一ヶ月間にホストファミリーを三回変えた。一回目のホストファミリーのおうちは、日本からの語学研修生とホストマザーと共に暮らしていた。初めの二週間、基本的に彼女が提供する食事は、サラダか冷凍食品。食卓には 10 日前にあった市販のポテトサラダが並ぶ。海外の食事などこんなものだと自分に言い聞かせ我慢していたが、ホストマザーは次第に夕飯を作ってくれなくなり、食器洗いや夕飯作りを私ともう一人の語学研修生にやらせるようになった。料理が出来上がったところに颯爽と現れ完食し消えていく。食事以外にも嫌だったことは、毎日平均5時間以上のホストマザーの長電話。大半は投資と銀行、家具の売買の話。リビングにいたら家具の運搬や組み立て・洗濯・掃除の手伝いをさせられるから、自室に籠もり大学からの大量の予習・復習・課題・テストをこなす日々が続いていた。嫌味も多く言われ、ストレスが溜まり限界だったため AHN(Australia Homestay Network)にホストファミリー変更の依頼をし、3日後にここから出ていけることになった。しかし、次の日夕飯代の事でホストマザーと口論になった。彼女が精神病患者であった話を聞いていたため、威圧的な態度に恐ろしくなった。すぐに AHN の緊急連絡先に電話をして状況を報告。3日間ここで耐えられそうにないと AHN の社長にも伝え、ステイ先が同じだった語学研修生の現地コーディネーターや、大学の先生、友達、家族に連絡を取り、部屋の鍵をかけて閉じこもった。身の危険を感じたため、貴重品を持ち部屋の窓から逃げた。まさに脱出劇だった。そのままダッシュし近くの東京ドーム 5 個分の動物園に逃げ込んだ。先日年パスを買っておいてラッキーだった。コアラを見て気分を落ち着かせ、計 40 キロの荷物を外に出し迎えに来てくれた車に飛び乗り地獄から脱出した。その後、現地で知り合った方のお家にステイさせていただいた。人生で一番怖い思いをした2日間だった。しかし、不運は続き次のホストファミリーも私には合わなかった。家が二軒あり、ホストファミリーは違う家に住み、会話は一切なし。他にも留学生在が滞在していたが、部屋・シャワールーム・トイレにカギはない。食事の質も良くなく、一日目は髪の毛入りの謎の麺。二日目は、豆とコーンとソーセージの入ったチャーハン。それは二日分の夕飯だから考えて食べなさい、電気は頭上以外つけてはいけない。このホストファミリーにとって私は邪魔者でしかないのだろうと感じ辛

くなった。ストレスのせいで食欲が湧かず食べられないのに吐き気や胃もたれ・頭痛がするなどすぐに体調不良になった。しかしこの際も、教務学生室の方々と大学の先生が親身になって助けてくださったため、すぐにホストファミリーを変更できた。

○ホストファミリーに問題があったら**我慢せずにチェンジ！ Remember! I'm not alone!**

当初、私はホストファミリーとの関係悪化や面倒を恐れ不満はあったが我慢していた。しかし、ストレスのせいで体調不良になった。トラブルが起きた・辛い時の我慢は不要だ。特に、身の安全に危険があると感じた時はすぐに逃げるべきである。ホストファミリーを変えるのは大きな決断だが、貴重な留学の時間を無駄にするのは損。そして、**すぐに行動する事・一人で抱え込まない事**が大切である。私は、ホームステイネットワークの他にサザンクロス大学の先生・静岡文化芸術大学の教務学生室と先生・現地で知り合った信頼できる方・友達に連絡をした。学校関係の方を含め多くの方がホームステイ機関に連絡し、迅速な対応を依頼してくださった。また、次のホストファミリーが決まるまで快く家に泊めさせてくれた友人や助けてくれた現地の方には心から感謝している。出会って一週間しか経っていないのに、友達なのだから当たり前だよ。と荷物運びや食事までご馳走してくれた中国人の友人。多くの方々の温かさに触れた一ヶ月であった。異国の地に1人でいるという不安の中、このようなホームステイ関係のトラブルは精神的に辛い。しかし、私には助けてくれる素敵な方々が多くいた。今までの人生の中で一番辛い経験であったが、大切な学びや経験を得ることができた。



一週間ほぼ連続この献立



髪の毛入りの謎の麺



部屋の中に共用洗濯

○ 2週間でバスを5回乗り間違えた話

前述の内容に比べると平和な話だが、ここに来て私はバスを6回乗り間違えている。勿論、私に欠陥がある訳なのだが、意味不明なバスのシステムとルーズすぎる運転手にも非はあるのではないかとにかく、ここのバスは時間通りに来ない（途中でいなくなることもある）し、運転手が路線を間違える事もある。文芸大から語学研修で来ている友達と中間地のByron Bayで遊んだ日の事。私はこの日もバスに乗り間違えた訳だが、間違えたことに気付いたときにはバスは真反対の方向へ行くハイウェイの上だった。私はパニックになって運転手と乗客ほぼ全員に助けを求めすぐさまバスから飛び降りた。しかし、Byron Bay直行のシャトルバスに乗り遅れたため予約の時間を爆速で変更し、最終的には何とか友達と感動

の再会を果たすことができた。

③ 大学

今期は Language and learning in your discipline という授業を履修しており、critical thinking や大学で専門的な分野を学ぶための基礎知識を付けている。今は、事前に用意された記事を参考文献として用い、ソーシャルメディアマーケティングについての Essay を書いている。比較的少人数の講義 Tutorial、Laboratory、オンライン授業 workshop と授業形態が異なり、大学に行くのは一週間に 2 日ほどだ。しかし、一週間に最低でも 20 時間の自己学習が課せられ、予習・復習がされている体で授業は進められる。文芸大の授業でも分からない事は山ほどあるため、英語で行われる学部授業はその数倍難しいが、予習や復習を繰り返し学習に力をいれていたためテストでは High Distinction を取る事が出来た。

④ 友達

この一か月間辛いことは多かったが、オーストラリア・コロンビア・中国・台湾・香港・インドネシア・エリトリアなど他国の友達もたくさんできた。私は極力日本人とは絡まないようにしている。日本人の友達は、日本に沢山いるのだからここでは別に必要ない！と思うからだ。そして何より他国の方と友達になるのは実に楽しい。しかし、毎回自分の知識の足りなさに恥をかいている。日本にいた時は、雑学や興味のあるトピックを友達にひけらかし呆れられていたくらいだったがここに来て、もっと日本の事を勉強しておけば良かったと後悔している。安倍総理の銃殺事件や日本の民主主義について、オーストラリアや他国と関わりのある日本の歴史などが話題に出た。他にも、私は中国史が好きなため中国の友達と歴史時代劇の話ができるのは大変嬉しい。「朋有り遠方より来る、亦た楽しからずや」を感じた瞬間であった。

この先何が起きても、この一か月間の苦痛を思い返せば、何でも乗り越えられると感じる。何故、自分がこんなに辛い思いをしなければいけないのかと何度も思ったが、試練や苦難こそ留学の醍醐味！日本にいた時の自分がどんなに楽に甘えて過ごしていたかを痛感し反省した。試練を乗り越え、学び成長し自信に満ちた強い女性になりたい。



サザンクロス大学



ビーチから見た日の出



人気観光地 Byron Bay のビーチ
大学の友達と日帰り旅行



色付きパウダーを投げつけるパリのなフェス
ColorFest

インドネシア・コロンビア・台湾からの友達です♪



Currumbin Wildlife sanctuary

コアラ抱っこして撮影できます



Disney 100 the orchestra concert